

書評

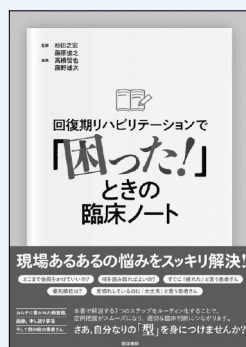
回復期リハビリテーションで「困った!」ときの臨床ノート

杉田之宏、藤原俊之(監修)
高橋哲也、藤野雄次(編)

B5判・256頁
定価: 4,180円(本体3,800円+税10%)
医学書院刊, 2022年

先輩セラピストの臨床思考と 後輩セラピストの臨床課題が浮き彫りに

[評者] 上野勝弘 西記念ポートアイランドリハビリテーション病院リハビリテーション科



回復期リハビリテーション病棟は2000年4月に始まり、これまで多くの脳血管疾患や整形疾患の患者さんに対して、回復期のリハビリテーションに取り組んできました。そして、この22年間に高齢化は進み、患者さんが抱える障害像は多岐に変化してきています。

2022年度の診療報酬改定では、「回復期リハビリテーションを要する状態」の対象に「急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態」が追加され、心大血管疾患リハビリテーション料が算定可能となりました。また、重症患者の受け入れ割合が高められたこともあり、今後、回復期リハビリテーション病棟では、重複疾患・障害を有する重症度の高い患者さんを受け入れ、質の高いリハビリテーションを提供し、アウトカムを出すことが求められています。

しかし、急性期での臨床経験が少ない若手セラピストも多く、多様化・重症化する患者さんに対応できる人材育成が課題となっ

ています。急性期・回復期・生活期と病床機能分化が進んだことにより、症状経過に沿った臨床を経験することが難しく、多様化・重症化した患者さんの状態に合わせた臨床介入に難渋するケースが見受けられています。

本書は、回復期リハビリテーション病棟の臨床現場で困る事例に焦点を当て、症例把握の「型」を7つのステップに分けルーティン化し、臨床場面で遭遇する悩みや疑問点を解決していく、その糸口となるよう構成されています。第1章では、まず病態把握と症例理解を標準化するため社会的背景・全身状態の把握・リスク管理など7つのステップに分けられ、ルーティン化できる「型」を構成しています。第2章では実際の臨床場面で遭遇する事案に対し、「型」を通しながらどのように情報を収集・整理し、臨床活用していくのか、先輩セラピストと後輩セラピストのQ & A方式で提示されています。難渋症例に対して、先輩セラピストが解釈している視点と、後

輩セラピストが解釈している視点にどのような違いがあるのか、その違いをうまく気づかせてくれる内容となっています。本書を通して先輩セラピストの臨床思考を学べる機会となり、また、後輩セラピストが陥りやすい臨床課題がどこなのかを考えさせられます。あらためてセラピスト自らの臨床思考を見直せるよい機会になるものと思います。

「型から入って型を出す」と言われますが、「型」である7つのステップをルーティン化し、病態把握と症例理解を標準化するための基礎を学ぶことで、さらに「なぜ、そのように考えるのか」と深みのある解釈へつなげられるものと思います。「型」を出て、一人ひとりの患者さんに質の高いリハビリテーションが提供できるように、継続した学びの大切さに気づかせてもらえる書籍です。ぜひ本書を手にとって、7つのステップの「型」を感じとってください。